

苫小牧市長 岩倉 博文 様

2017年12月8日
苫小牧市見山町1丁目8-23
勤医協苫小牧病院
院長 宮崎 有広

子どもの医療費助成に関わる要請・懇談の申し入れ

日頃から医療・介護・福祉活動等、ふくし大作戦と称し市民の暮らしを考える市政運営いただき敬意を表します。特に当院との関連では、苫小牧市が無料低額診療対象者へ調剤薬局にかかる費用を助成いただいていることで多くの患者さん・家族から感謝の声が寄せられております。

当院は、市内医療機関における特定健診実施率が約12.3%、救急車受け入れが3.3%であり微力ではありますが、苫小牧市医師会や多くの医療・介護事業所、地域の方々にご協力を頂きながら奮闘しております。

当院の無料低額診療は、就学援助世帯を対象にしておりますので、毎月約30人（無料低額診療の約2割）の子どもとその親が受診しております。就学援助世帯にとって医療費の一部負担は重くのしかかるため、西は錦岡から東は植苗まで無料低額診療を頼って当院を受診されます。「本当は近くの小児科にかかりたかった」「耳鼻科にかかりたいが悩んでしまう」「半年が過ぎたら薬代がかかってしまうのですね」等の声が聞かれています。

日本は先進諸国の中で子どもの相対的貧困率が高いと問題視される中、北海道そして苫小牧市の子どもの貧困率はさらに高いという一部データも示されています。4月に北海道が発表した「子どもの貧困に関する全道実態調査」では、経済的理由で受診を断念させた世帯が17.8%、非課税世帯では32.6%と高いことがわっています。

このような現状を踏まえて苫小牧市は、就学援助世帯に対する入学前の準備金支給など先進的な施策に取り組まれています。しかし、子ども医療（乳幼児等医療費助成）に関しては、北海道の基準である就学前までの助成に留まっております。北海道の中でも函館市等は、中学3年生まで助成を行っておりますので苫小牧市でも助成の範囲を拡大いただきたく考えております。

以上のような背景から下記につきまして要請・懇談を行いたく、宜しくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 乳幼児等医療費助成の対象範囲拡大について
2. 無料低額診療に関わる調剤薬局自己負担対象期間の延長について

以上